

富士山文化の宝箱

北口本宮富士浅間神社

北口本宮富士浅間神社は、富士山頂に向かう富士講の巡礼者が通った吉田口登山道の起点です。高さほぼ 18 メートルと日本最大級であるこの神社の木造鳥居は、富士山への玄関口となっています。

その歴史の大部分において、北口本宮富士浅間神社は都留郡の中心的神社であり、この神社を信仰していた地域の領主の庇護を受けていました。1704 年に都留郡が幕府の直轄領となった際、この庇護を失ったものの、神社はその後隆盛した富士講信仰のさなかで繁栄しつづけました。境内の建物のうち、1561 年に建造された東宮本殿をはじめとする 11 棟が国の重要文化財に指定されています。